



京都中部総合医療センター

Kyoto Chubu Medical Center

旧：公立南丹病院



新緑の爽やかな風とともに、京都中部総合医療センターは多くの新入職員を迎えることができました。それぞれの部署で緊張の中ではありますが、チームの一員として頑張っています。

地域の拠点病院として、患者さん中心の良質な医療を行い、地域に愛され信頼される病院を目指すことが病院の理念であります。生命・健康・信頼を表現している病院のロゴマークのように、スタッフ一同患者さんが満足できる安全な医療、心温まる看護を提供していきたいと思えます。

看護部長 かわかつ ともこ 川勝 智子

臨床研修指定病院 地域がん診療病院 救急告示病院
日本医療機能評価機構認定病院 へき地医療拠点病院
第二種感染症指定医療機関 地域周産期母子医療センター
京都府地域リハビリテーション支援センター エイズ拠点病院
京都府難病医療協力病院 地域災害医療センター
DMAT指定医療機関 認知症疾患医療センター

京都中部総合医療センター

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地
TEL 0771-42-2510(代) FAX 0771-42-2096

<http://www.kyoto-chubumedc.or.jp>





病院の理念

地域の拠点病院として、患者さん中心の良質な医療を行い、地域に愛され信頼される病院を目指す。

患者さんの権利と責務

私たちは患者さんの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

1. 説明を受ける権利
2. 治療を選択する権利
3. 情報を知る権利
4. 個人医療情報の保護を受ける権利
5. 自分の健康情報を正確に提供する責務
6. 説明を理解するまで問う責務
7. 病院での規則に従う責務

2018.7
Vol.39
夏号

CONTENTS

- 院長挨拶 ①
- 平成29年度患者満足度調査 ②
- 働き始めて ③
- 退院支援 ⑤
- 診療科紹介 ⑥
- 看護の日のイベントを開催しました ... ⑦
- 旬の食材で健康なからだと栄養管理... ⑦
- 公立南丹看護専門学校 ⑧
- 近隣の連携医療機関の先生方 ⑨
まついこどもクリニック
永田眼科クリニック
- 連携で支える地域医療 ⑩
- 平成30年度 オープンキャンパス・
学校見学会のお知らせ
- 看護師・助産師募集
- 編集後記

院長挨拶

夏の盛りに

院長 **辰巳 哲也**



桜の季節が過ぎ、今年もまた美しい新緑の季節が私たちの地域に訪れました。5月に入ると、まるで夏日のような暑い日が続きました。梅雨の晴れ間でも真夏日となり、厳しい暑さの日がありました。夏季休暇を利用して、夏のレジャーを楽しむ方も多いと思います。今年の夏は全国的に平年より気温が高く猛暑となる予想ですので、熱中症などに十分ご注意ください、お身体を御自愛ください。また、病院としては梅雨時期を含めて、局地的な大雨などの災害にも十分備えていきたいと考えています。

6月にはシンガポールでドナルド・トランプ米大統領と北朝鮮の金正恩国務委員長による、初めての米朝首脳会談が行われました。合意内容については賛否両論があるでしょうが、今後、事務レベルでの協議が繰り返し行われ、朝鮮半島の平和体制の構築、東アジアの安全保障や日本人の拉致問題に解決の糸口が見いだされることを心から願いたいと思います。

日本という平和な国で暮らしていると、世界情勢はゆっくり変わっていくように感じられますが、ここ数年の医療を取り巻く環境は驚くべき速さで変わってきました。惑星直列と言われた2018年の診療報酬では、1) 地域包括ケアシステムの構築と医療機能分化・連携の促進、2) 安全で質の高い医療の実現、3) 「働き方改革」を見据えた医療従事者の負担軽減などが求められています。新専門医制度の開始や将来起り得る消費税の増税なども医療の提供体制や病院経営に大きく影響してくると思われます。

日本の将来推計人口の推移をみてみますと、高齢化率は2060年に向かって益々増え続け、生産年齢人口の割合は徐々に低下していきます。DPCを用いたビッグデータから分析すると、入院での医療需要は2030年くらいをピークに徐々に減ることが予想されます。高齢化社会で需要が増す疾患も、既に示されています。病院は地域における自院内の病床機能をデータに基づいて客観的に把握し、地域での医療需要や地域における疾患ごとのアクセシビリティを考えた、医療の提供体制を真剣に考えていく時代となってきたと思います。また、医療や介護需要は単なる数字合わせではなく、地域実情に応じた適切で柔軟な対応が必要で、行政を含めた医療に携わる責任者間での調整会議が持たれることを望みます。

京都中部総合医療センターは医療連携・協調を促進させて、地域の医療従事者の方々と顔の見える関係を深め、地域医療支援病院取得に向けての努力を続けています。地域の基幹病院としての責任と自覚を持ち、外来から退院支援までPatient Flow Management (PFM)を住民の皆様にご提供できるよう、職員一丸となって頑張りますので、今後とも皆様の御協力と御支援を賜りますようどうか宜しくお願いいたします。

最近、成人年齢を20歳から18歳に引き下げる改正民法が参議院で成立しました。約140年続いた「大人」の定義が2022年4月から変わります。若年層の積極的な社会参加が期待されますが、一方で高齢者が増えていく社会において、ご高齢の方々が75歳まで元気に働ける世の中を本気で構築して欲しいものです。皆様の夏が今年も楽しい思い出となりますようにお祈りしております。



平成29年度患者満足度調査

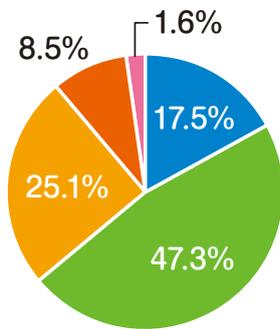
副看護部長・業務改善委員会 ふじさか 藤阪 よ みさ代

当院では、地域住民の皆さまに親しまれ信頼していただける病院を目指して、日々取り組んでおります。その一環として病院スタッフの接遇や医療環境などに対するご要望をお聞きし、更なるサービスの向上につなげるため、業務改善委員会では、アンケート形式で患者満足度調査を実施しています。

アンケート配布・回収結果
調査期間 平成30年2月19日(月)～平成30年2月23日(金)

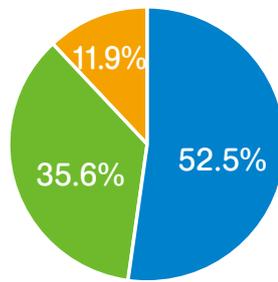
	配布枚数	回収枚数	有効回答数
外来	1,000	471	446
入院	100	61	59

外来満足度



■ 満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない
■ やや不満 ■ 不満

入院満足度



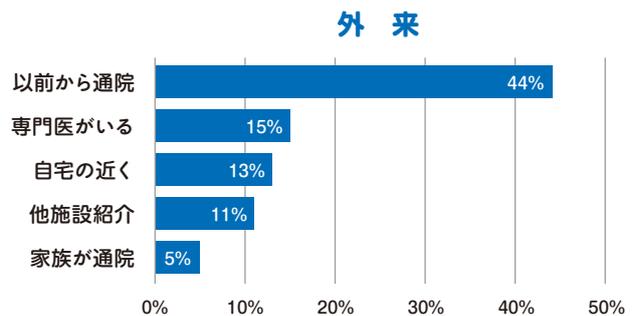
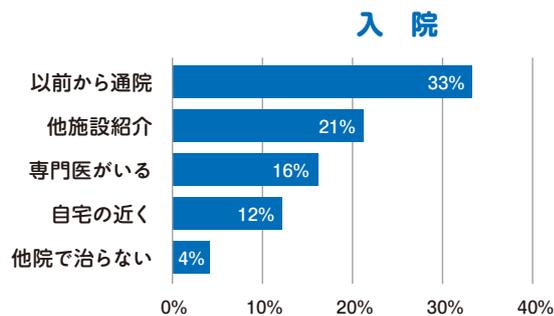
全体の満足度は、外来については「満足・やや満足」が64%と昨年度より10%低下となっています。入院については「満足・やや満足」89%の評価で昨年度より6%の低下となりました。

当院を選んだ理由としては「以前から通院」「他施設紹介」と回答された患者さんの割合が多く、地域との関りが深い病院であることがわかります。

今回の調査結果は昨年度と比べ満足度が低下した結果となりましたが、患者さんから貴重なご意見も多々いただいております。頂戴したご意見を改善につなげられるように検討してまいります。今後も患者さんの満足度向上に努め、患者さん中心の良質な医療、看護を提供し、地域に信頼される病院となるよう努力してまいります。

アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

当院を選んだ理由(選択式・上位5項目)



新任医師の紹介

整形外科 医師 いのうえ さとし 井上 聡志

本年7月まで京都第二赤十字病院で勤務しておりました。外傷を主に担当しております。微力ではありますが、怪我をされた患者様が少しでも元の生活に戻るよう尽力させていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。



京都中部総合医療センター 新人職員のメッセージ

今年も多くの新人職員が病院スタッフとして、それぞれの部署で働き始めています。これからも地域の皆さまの健康を支える医療チームの一員として努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



研修医 Resident

わたなべ かずのり
渡辺 和徳

働き初めて数ヶ月が経とうとしていますが、ようやく病院の雰囲気にも慣れてきました。まだまだわからないことも多く、戸惑うことばかりですが丁寧にご指導くださる先生方や切磋琢磨できる同期たちのおかげで非常に充実した毎日を送っています。この恵まれた環境を最大限に活かし、貪欲さを忘れずに日々成長できるよう精一杯頑張っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

看護師 Nurse

きど ゆうか
木戸 優香

不安と期待が入り混じる中で入職し、初めてのことで戸惑うことも多く、先輩方との技術や知識の差に焦ったり、できない自分が嫌になり、しんどいと感じることもありました。しかし先輩方のご指導や励ましの言葉に支えられ、緊張や焦りだけでなく、楽しいと感じることができる場面も増えてきました。今後も至らないことは多いと思いますが、看護師として成長していけるよう一日一日を大切に頑張っていきたいと思っています。



作業療法士 Occupational Therapists

たかやま なおや おがわ たくみ
高山 直也 小川 拓実

新しい環境での戸惑いもありますが、先輩の療法士の方々からのご指導をいただきながら、同期内でも切磋琢磨し日々成長できるように取り組んでいます。

そして患者さんの生活に寄り添い、笑顔に溢れた豊かな生活を送っていただけるように、質の高い作業療法を提供できることを目標にこれから頑張っていきます。

理学療法士 Physical Therapist

かじ 穂尚 ほり みさき たけしま ともき かわむら ともよ
加地 穂尚 堀 美咲季 竹島 知希 河村 友誉

入職してから、社会人としての責任感、理学療法士としてのスタートラインに立てたことへの喜びと不安を感じています。

今年の新入職員の目標は「自分らしく」です。仕事に早く慣れることはもちろんですが、その中で自分の個性を忘れることなく4人らしい理学療法士に成長し、患者さんの生活をより良くしていきたいと思っています。



臨床工学技士 *Clinical Engineering Technologist*わたなべ じん や ひらの ゆうだい
渡邊 仁哉 平野 雄大

近年、医療機器の全自動化が普及しつつありますが、それらは正常に動作しなければ意味がありません。これからは医療機器を扱う能力のみならず管理する能力も必要になってきます。私達は、患者さんに安心してもらえる医療機器を用いて治療に貢献したいと願い、臨床工学技士の道を選びました。今後は患者さんからより信頼される臨床工学技士になれるように多くの知識を持って治療に貢献し、また患者さんとの会話も大切にしながら努めていきたいと思ひます。

臨床検査技師 *Medical Technologist*さいとう
齋藤 いずみ

高校生の頃から憧れていた、臨床検査技師になるという夢がこの春叶いました。検査技師の仕事はたくさんあり、その中で上手いかず落ち込むことも多くありますが、その度に検査室の方々が「大丈夫」と肩を叩いてくださることがとても励みになります。まだまだ未熟者ですが、患者さんに頼りにしてもらえよう検査技師になれるよう、精一杯頑張りたいと思ひます。

看護助手 *Nursing Assistant*しおの こうへい こさか ゆう
塩野 浩平 小坂 勇

当初は、右も左もわかりませんでした。先輩たちのご指導のおかげで、患者さん一人一人に関われるようになりました。今後、様々な経験を積んで、自分自身を成長させていきたいと思ひます。何年経過しても「初心」という言葉を忘れず、笑顔で明るく患者さんと関わっていくことで、今以上に安心してもらえるようにしていきたいと思ひます。

臨床心理士 *Clinical Psychologist*おおたに なぎ さ
大谷 凧沙

精神科で臨床心理士として働き始め、もう数ヶ月になります。不安と期待で胸がいっぱいでしたが、ようやく日々の業務にも慣れてきました。皆さま、臨床心理士という職種をご存知でしょうか。主に心の悩みをお持ちの患者さまや、そのご家族を対象に、一人一人にあったカウンセリングや心理検査を行う心の専門家です。一期一会の出会いを大切に、一人でも多くの方がよりよい生活を送ることができるよう全力を尽くして参りますので、よろしくお願ひ致します。

地域医療連携室 *Regional Medical Liaison Office* のざき さえ こ
野崎 早映子

私は滋賀県在住ですが、幸いなことに当院で働くご縁をいただきました。地域医療連携室では他の医療機関や地域の施設の方との連携が必要とされ、地域の事を全く知らない私は悪戦苦闘の毎日ですが、連携業務が円滑にできるように頑張っています。他にも、他院から紹介で来られた患者さんを診察室までご案内する業務では、患者さんの緊張が和らぐように笑顔で対応することを心掛けています。まだまだ未熟な私ですが、ご指導のほど宜しくお願ひします。



地域医療連携室 医療ソーシャルワーカー (MSW) ^{しばざき ゆうき} 柴崎 友希

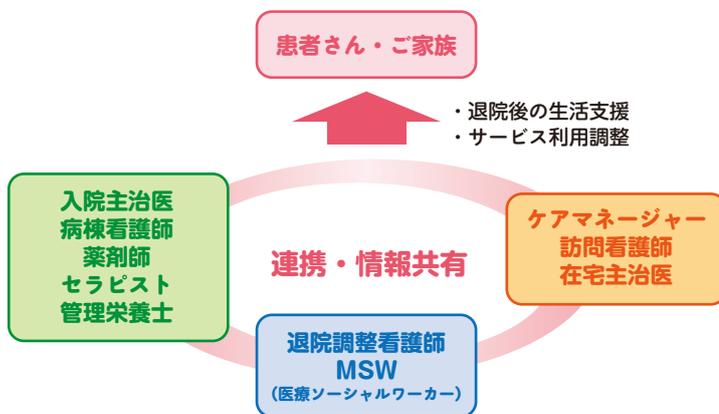
入院をきっかけに、患者さんやご家族が大きな転機を迎えることがあります。突然の病気によって人生設計の立て直しを迫られるケースや、高齢のために心身機能が低下し自宅での生活が困難になってくるケース、人生の最期を迎えようとしているケースなど、その理由は多岐にわたります。退院支援とは、そんな転機をむかえた患者さんやそのご家族が、安心して退院できるように支援したり、元の生活に戻れるようにお手伝いし、その人らしい選択ができるようサポートしていくことです。

退院支援は、MSW（医療ソーシャルワーカー）、退院調整看護師が中心となり支援していきますが、MSWや退院調整看護師だけでは、退院支援はうまくいきません。患者さんに関わる全ての職種がチームとして役割を分担し、主治医、病棟看護師、薬剤師、セラピストや管理栄養士などが状況に応じて、情報を共有しています。また当院では退院支援の研修を看護部で行っており、研修を修了した看護師は退院支援院内認定看護師として病棟での退院支援の中心的な役割を担っています。

患者さんが入院された時点で退院支援の必要性を判断し、支援が必要であれば患者さんやご家族との面談や、ケアマネージャーと連携し、自宅での生活状況やサービス利用状況を確認しています。また疾患は限定されますが、入院が決まった時点で入院患者サポートセンターで患者さんの生活状況等を確認し、MSWや退院調整看護師と情報を共有し早期の退院支援が行えるよう取り組みを始めています。

退院前には必要に応じて、患者さん、ご家族、地域のサービス提供者や病院スタッフで退院後の生活を見据えた話し合いを行います。退院前に地域のサービス提供者と病院のスタッフが情報の共有を図ることにより、患者さんやご家族が安心を得られることはもちろんですが、サービスを提供する側も不安が少なく患者さんに関わることができます。

MSWまたは退院調整看護師、退院支援院内認定看護師は各病棟に配置されています。心配なことや不安なことがございましたら、お気軽にご相談ください。



「退院支援院内認定看護師について」

看護師長 ^{いけだ あや} 池田 綾

退院支援は、患者さんとそのご家族が望む暮らしの場で生活し続けることを支援し、地域居住の継続を可能にするためには何が必要なのかを考え、地域医療連携室スタッフと連携し、自宅での生活をマネジメントする必要があります。

そこで、退院支援・退院調整についての基礎知識を習得し、退院支援が実践できることを目的として平成26年より、看護師長会の急性期病院機能向上チームの企画として「退院支援院内認定看護師」の育成のための研修をはじめました。今年で5年目を迎えますが、これまでの研修修了者は30人を超え、各部署で退院支援院内認定看護師としてそれぞれ活動しています。研修修了者には修了証とバッヂを渡しています。そのバッヂをつけているスタッフを見かけたら、お気軽にご相談ください。

私は昨年度からこの研修を担当させていただいていますが、今年度も多方面からの講師の方の講演や、訪問看護ステーションの看護師に同行し実際の訪問看護を学ぶなどの研修を計画しています。今後も退院支援院内認定看護師の必要性を理解し、退院支援の充実につなげていきたいと思っています。

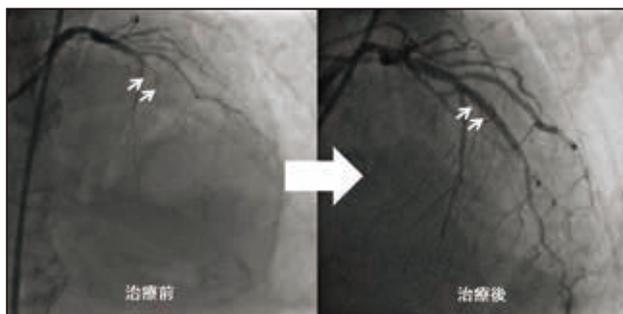


研修修了バッヂ

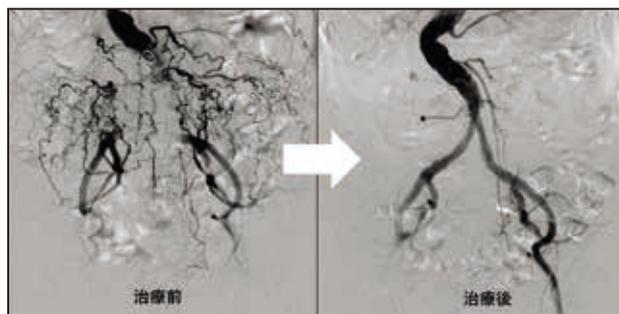
当院循環器内科には現在9名の常勤医師（その内、4名が循環器専門医）が在籍しております。循環器内科が扱う疾患は主に虚血性心疾患、不整脈、弁膜症、心筋症、末梢血管疾患など多岐にわたります。生活様式が欧米化して久しい現代の日本は、また同時に世界に類をみない超高齢社会を迎えております。そのため、高血圧症や糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病が増加し、そういった疾患を背景に進行してくる種々の循環器疾患の患者さんもこれまで以上に増えてきているのが現状です。

狭心症や心筋梗塞に代表される虚血性心疾患、また足の痛みやしびれ、難治性潰瘍を伴うこともある末梢血管疾患に対しては、カテーテルと呼ばれる細長いチューブを用いた体への負担が少ない検査・治療が主流になっており、当院におきましてもここ数年は下表の件数の検査・治療を実施しております。

急性心筋梗塞に対するカテーテル治療



末梢血管疾患に対するカテーテル治療



過去5年間の循環器内科治療件数の推移

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
心臓カテーテル検査総数	804	899	880	856	845
心臓カテーテル治療 (緊急検査)	364 (91)	383 (86)	406 (64)	439 (84)	400 (54)
末梢血管カテーテル治療	105	112	143	169	164
血液透析シャント血管内治療	14	45	50	42	48
永久ペースメーカー植込み術	33	50	39	34	31
永久ペースメーカー交換術	11	5	11	7	9

人口10万人あたり約30人が発症するといわれる急性心筋梗塞は、この南丹医療圏で緊急カテーテル検査を実施できるのが当院だけということもあり、医療圏で発症する多くの急性心筋梗塞の患者さん（年間60人前後）が来院されます。急性心筋梗塞の治療では、血液の塊（血栓）でつままった心臓を栄養する動脈の血流をカテーテル治療でできるだけ早く再開させることが重要です。そのために24時間365日の循環器内科対応を行い、カテーテル治療に携わる看護師や臨床工学技士、放射線技師との連携も強化して、より迅速にカテーテル治療が実施できる体制を整えております。



カテーテル検査室スタッフ

病気の治療もさることながら、いかに病気を予防していくかということも非常に大事です。最近、心臓や血管の病気の再発予防に、重要視されているのが心臓リハビリテーションです。これは心臓や血管の病気の患者さんが、低下した体力を回復し、精神的な自信を取り戻して社会や職場に復帰し、さらに心血管病の再発を予防して快適で質の良い生活を維持することをめざして、運動療法、患者教育、生活指導、カウンセリングなどの活動プログラムに参加することです。この目的のために、当院でも医師や理学療法士、看護師、栄養士など多職種のスタッフが参加して、心血管病の患者さんのサポートを行っております。

心血管病には一刻を争う重症の病気が数多く含まれ、それぞれに迅速かつ的確な対応が求められます。当院は南丹医療圏における循環器診療の拠点病院であり、われわれ循環器内科スタッフは常にその自覚のもと、皆様のご期待に応えるべく自己研鑽と日々の診療に全力で取り組んでまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

看護の日のイベントを開催しました

まつおか みよこ
看護師長 松岡 美代子

5月12日はフローレンス・ナイチンゲール生誕の日で、その日は看護の日、その前後の1週間を看護週間とよび、「看護の心をみんなの心に」をメインテーマに毎年、全国各地で様々なイベントが開催されています。今年の看護週間は5月6日から12日まででした。

当院でも11日金曜日に、毎年恒例のミニイベントを開催しました。看護の日を知っていただくためのPRグッズを配ったり、外来の一角を借りて認知症予防のための「脳年齢テスト」をさせていただいたり、大型テレビを使用して認知症予防のための「おもしろ問題ビデオ」を流したり、おむつの種類の説明や正しい当て方をレクチャーしたりしました。外来を待つ時間に多くの方に興味を持って視聴、体験していただけたようでうれしく思います。



このような機会を利用して地域の方に「看護」について考えていただく場になっていたらうれしく思います。地域の皆様が安心して当院での医療を受けていただけますよう、私たち看護師は看護の心を大切にこれからも活動をしていきたいと思っております。

旬の食材で健康なからだと栄養管理

一味違ったトマト料理で夏バテ予防

いまい もとぎ
栄養科管理栄養士 今井 基貴

全国各地で栽培され一年中出荷されているトマトですが、6～9月に旬を迎えます。トマトはビタミン、鉄、カルシウム、カリウムなどのミネラルや水溶性食物繊維など多種の栄養を含んでいます。特にビタミンCは夏バテ予防や疲労回復の効果があり、トマトのビタミンCは比較的熱に強く、生で食べる事が多いトマトは、ビタミンCが壊れにくく効率よく体に取り込めます。また、トマト独特の甘酸っぱい酸味はクエン酸やリンゴ酸によるもので、これらの成分は胃液の分泌を促進し、食欲増進や疲労回復を早める効果があります。

トマトには昆布の旨味と同じグルタミン酸という旨味成分が豊富に含まれています。日本で昆布だしやかつおだしがさまざまな料理に使われてきたように、イタリアではトマトがその代わりとして親しまれてきており、トマトが日本における味噌や醤油の役割を果たしています。

最近では日本でもトマトの旨味を利用したトマト鍋やトマト筑前煮などの料理を目にします。魚や肉の煮込み料理にトマトを入れると、魚や肉の旨味と相まって一層旨味が引き立ちます。

今年の夏はいつもと違ったトマト料理で夏バテを予防してみたいはいかがでしょうか。



看護学校に入学して

16期生 おおしまんりな 大志万 莉菜

高校生のときに看護師になりたいという夢のために受験勉強を頑張って入学しました。しかし、高校とは全く違う生活リズムと、比べものにならない勉強量に正直入学前より今の方が不安が大きいです。でも自分の目指すものために、一度決めたことは最後まで絶対に諦めない自分の性格を生かして、絶対に意地でも努力してしっかりと勉強に追いつきたいと思います。また3年後には卒業したいです。

まず早くこの新しい生活に慣れたいです。そして一緒に看護師を目指す人たちと支えあって頑張ります。



16期生 いけだあみ 池田 愛美

看護学生になってまだ間もないですが、友達もでき、クラスの雰囲気もとても良いのでこれからはもっと大変なことや辛いことがあるのだろうと不安ももちろんありますが、みんなで国家試験合格、そして卒業まで迎えることができたらいいなと思っています。

私は九州出身ですが寂しいなと感じることは今のところありません。看護の現場で実際に働いていらした先生方から講義を受けられることや、休み時間に友達と話せることがとても新鮮で楽しいです。先を見て行動し、辛いことに負けないよう頑張りたいと思います。

防災訓練に参加して

15期生 しげたまみ 茂田 真美

私は今回の防災訓練に参加するにあたって、自分も含め他者を護るための対処法と二次災害防止法を学ぶことを目的とし、参加しました。

まず煙の舞う部屋から逃げ出す方法として、姿勢を低くし、口元に布を当て、素早く脱出する訓練と、ハシゴを使い、外に脱出する2パターンの体験から、自分の安全を確保する方法を学びました。次に、二次災害防止の方法を学びました。布と棒を使い担架を作ることで、怪我人や自力で動けない方を安全な場所へ移すことができます。また、消火器の使い方、周囲に火事であることを知らせることで、避難を促し、安全を確保します。避難する際には、火の元を確認し、さらなる災害を防ぐ大切さを学びました。

上記の学びを、今後の生活で生かすために、日常的に今回の学びを思い出し、家を出る時は、火の元を確認する・火災が起こりうる状況を作らないなど、災害を未然に防ぐ工夫を生活に取り入れていくことが大切だと考えました。



16期生 むらたゆうい 村田 由衣

今回、この防災訓練を通して、いざとなった時の緊急事態に、いかに臨機応変に動けるかが大切だと改めて思いました。

本当に危険な事態が起こった時、落ち着くことができず、焦ってしまうのが現実だと思います。その時に冷静な判断をして、いかにその場を収めることができるかが命を守る重要なポイントです。それは看護という面においても言えることだと考えました。命を扱う仕事なので、今回のこの貴重な経験は未来に繋がるきっかけとなりました。消火栓や消火器の使い方をわかりやすく丁寧に教えていただいたので、いざとなった時の緊急事態に生かしたいと思います。また大きな声を出すということも大切でした。1人よりも2人、3人と人数が増えるほど心強くなります。

色んな場面において、勇気をふりしぼって行動することが重要となってきます。恥ずかしがらずに、誰かのために頑張ることをこれから意識していきたいです。

近隣の連携医療機関の先生方

「地域に根ざしたクリニック」を目指して

まついこどもクリニック

院長 松井 史裕

平成30年5月に亀岡市篠町、馬堀駅近くで開院させていただきました「まついこどもクリニック」の松井史裕と申します。公立南丹病院（現、京都中部総合医療センター）へは平成22年に赴任してから常勤としては3年足らずの短い期間でしたが、専門外来（小児神経外来）は赴任前の平成21年から開業直前の平成30年4月まで、途中留学等で不在の期間もありましたが、足掛け10年にわたって関わらせていただきました。産まれた時からずっと診ている子供たちも多く、思い入れのあるこの南丹地区で開業できたことをとても嬉しく思っております。

開業してからまだ2ヶ月の短期間ですが、この間にも京都中部総合医療センターへ数名の患者さんを紹介し治療いただきました。病院勤務時代には紹介を受ける側だった自分が今は紹介する側にまわり、病診連携の重要性を実感している日々です。これは医療側にとってだけではなく、患者さんにとっても願ってもないシステムであり、どの患者さんもスムーズな連携に大変感謝しておられました。また、亀岡市でも東に位置する当クリニックですが、「入院＝京都中部総合医療センター」という流れが浸透しているようで、地域住民から京都中部総合医療センターへの信頼の厚さも感じております。

今回開業するにあたって、小児科だけでなく小児神経内科も標榜もさせていただきましたが、今まで自分が携わってきた、てんかん診療や障がい児（者）医療については、小児の枠を超えて成人になっても専門的に対応していきたいという思いがあってのことです。地域で唯一のてんかん専門（内科）医として、大人から子供まで幅広く対応していければと考えております。また、一部の重度障害の患者さんに対しては、在宅医療を提供させていただくことになりました。小児あるいは障がい児（者）については当地区ではほぼはじめての試みになりますが、これも京都中部総合医療センターのバックアップがあって実現できました。

これから地域医療に貢献すべく、地域に根ざしたクリニックを目指して、少しでも長く医院を続けていきたいと思っております。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。



「日帰り硝子体手術」も行っています

永田眼科クリニック

院長 永田 真帆

平成30年4月に亀岡市の国道9号線「頼政塚」交差点の近くで開院しました「永田眼科クリニック」の永田真帆と申します。同じ眼科医である夫が亀岡市出身で、また私自身も亀岡で非常勤医師として約6年間、継続して外来と手術を行ってきたこともあり、縁あって亀岡市で開院することとなりました。

「永田眼科クリニック」の大きな特徴は、今まで亀岡市では全く行われていなかった、硝子体手術も行っているということです。網膜剥離や硝子体出血、黄斑上膜などの治療である硝子体手術を施行できる施設は非常に限られますが、当院では、網膜硝子体疾患を専門とする医師（夫です）が日帰り硝子体手術を行っております。特に網膜剥離を発症した方は、一般的に大病院に入院して緊急手術が必要となりますが、亀岡で、しかも日帰りで、大学と同等の硝子体手術が可能になりました。疾患の特性上、緊急手術が必要である症例が多いことから、当院では臨時手術にも対応していく所存です。臨時の硝子体手術が必要な患者様などおられるようでしたら、ぜひご紹介をお願いします。

また当院では、開院に際し、大学と同等の最新の機器を備えるようにいたしました。「SS-OCT」（光干渉断層眼底撮影）を導入することにより黄斑部や緑内障のより詳細な診断が可能となっています。また「広角眼底カメラ」により、散瞳することなく通常の眼底カメラよりも広い範囲の眼底を撮影することができるようになり、車で来院された患者様でも、ある程度の眼底疾患の診断ができます。

開院してまだ数ヶ月で、できたてほやほやですが、予想以上にたくさんの患者さんに来院していただき、患者さんのご希望にあわせて多くの白内障手術、硝子体手術をさせていただき、外来診療と手術に励む毎日を過ごしております。クリニック院長としての毎日は、勤務医とはちがう業務が多々あり、慣れないことも多いですが、日々成長していけるよう精進していきたいと思っております。今後ともどうかよろしく願い申し上げます。



連携で支える地域医療

地域医療連携室 副室長 ひらい くみこ 平井 久美子

患者さんに身近な地域で切れ目のない一連の医療が提供されるよう、医療機関は相互に役割（機能）分担し、その連携をすすめることが必要とされています。これは地域医療全体の充実・地域完結型医療の実現を目的としたもので、国が推し進めている施策のひとつであり、そのような役割を果たす病院は地域医療支援病院として都道府県より承認されます。

当院は地域の中核病院として、他の医療機関から紹介された患者さんへの医療の提供、CTやMRI、内視鏡などの検査の実施、医療従事者への研修の提供などを通して、地域医療を第一線で担うかかりつけ医、かかりつけ歯科医師との連携を進めてきました。南丹医療圏の最終拠点を担当する公立病院として、地域の医療を支えるという使命を果たすべく、昨年より地域の医療機関との更なる連携強化に取り組み、地域の医療機関の先生方へ登録医制度をご案内したり、ご紹介いただいた患者さんやかかりつけ医を持つ患者さんの医療連携の強化に取り組んでまいりました。

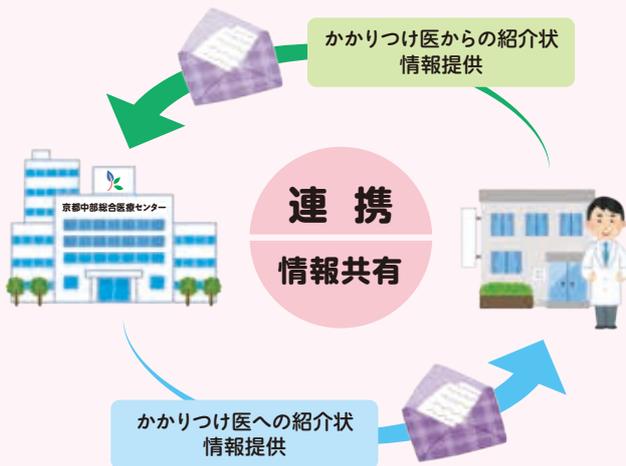
今年度も地域の医療連携の強化に向けて、当院と地域の医療機関が役割を分担し、それぞれがその役割を果たせるよう、引き続き取り組んで参ります。地域の医療機関関係者の方々、患者さん、ご家族をはじめ、地域のみなさんにはご理解とご協力をお願い申し上げます。

患者さんには「かかりつけ医」をお持ちいただくことをお願いしています。初期治療や慢性疾患の病状管理などは地域の「かかりつけ医」を受診していただき、専門的な治療や検査、入院治療が必要と「かかりつけ医」が判断された場合には紹介状（診療情報提供書）を持って当院を受診していただくことをお願いします。紹介状にある治療経過やお薬の情報をもとに適切な治療を行うことができる他、選定療養費がかかりません。また、

地域医療連携室では「かかりつけ医」と連携し診察・検査予約など、事前に調整させていただきますので、待ち時間の短縮になります。外来診療や入院加療にて急性期の治療が終了し病状が安定すれば、地域の医療機関へ情報提供し「かかりつけ医」での診療を継続していただきます。

このように地域全体の医療連携を強化し、患者さんや市民の方々にとって安心して暮らせる地域となるよう、これからも貢献していきたいと考えています。

都道府県知事から承認された400床以上の地域医療支援病院は紹介状なしで初診診療を受けられた場合に5,400円（税込）、他の医療機関へ紹介させていただいたにもかかわらず、再度受診された場合に2,700円（税込）の選定療養費の支払いが必要と平成30年度診療報酬改定で定められました。



かかりつけ医を持ちましょう

かかりつけ医とは・・・

普段の健康状態を把握してくれるもっとも身近な「主治医」のことです。

具合が悪くなったり、困ったときにはいちばんに受診できる「かかりつけ医」を持ちましょう。



総合受付①窓口

かかりつけ医についてのご相談は

地域医療連携室 電話 0771-42-5061 (直通)

受付時間 平日8:30~17:15

平成30年度 オープンキャンパス・学校見学会のお知らせ

公立南丹看護専門学校では、看護師を目指す人々に看護学校について、知っていただくことを目的とし、オープンキャンパス・学校見学会を行っております。

●オープンキャンパス

日 時:平成30年8月10日(金)13:00~16:00 (申込受付 平成30年8月1日(水)17時まで)

内 容:学校紹介・学校内見学・体験学習・在校生との交流・個別相談など

*申込人数により募集締切日までに募集を終了する場合がございます。ご了承ください。

●学校見学会

日 時:平成30年9月1日(土)10:00~11:00 (申込受付 平成30年8月24日(金)17時まで)

平成30年10月27日(土)10:00~11:00 (申込受付 平成30年10月19日(金)17時まで)

内 容:学校紹介・学校内見学・個別相談など

〈申込について〉

①電話またはホームページ申込フォームで次の事項を申し込んでください。

・氏名 ・学校名(在学校or社会人) ・連絡先

②同伴される保護者がおられましたら教えてください。

(保護者の方は、体験学習には参加できません。)

受付は30分前より行います。駐車場はありませんので公共交通機関をご利用ください。

〒629-0196 京都府南丹市八木町南広瀬上野3番地1

公立南丹看護専門学校

TEL 0771-42-5364 / FAX 0771-42-5422

<http://www.nantan-kango.ac.jp>



看護師・助産師募集

(正職員・臨時職員)

正職員・臨時職員共に院内保育所を利用できます。

看護師寮(正職員のみ)利用も可能です。(月額10,480円)

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地

京都中部総合医療センター 総務課人事係

TEL 0771-42-2510(代) まで

詳しくはホームページをご覧ください。

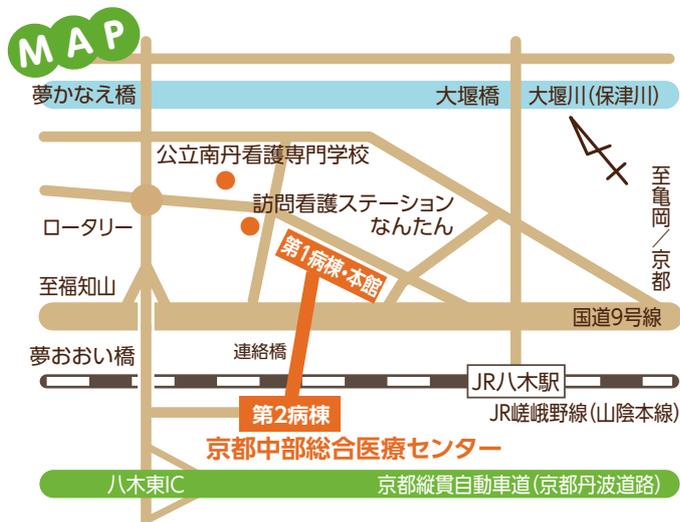
<http://www.kyoto-chubumedc.or.jp/nurse/>



編集後記

当院で働き始めて早いもので1年が経ち、今年度より広報委員として広報誌にも携わらせていただくことになりました。広報誌の作成を通して、私自身も院内の取り組みや、地域の様々な情報を知ることができ、とても勉強になります。手に取ってくださった皆さんにも、いろいろな情報をわかりやすくお伝えしたいと思っています。これからも楽しんで読んでいただけるような魅力のある広報誌を目指してまいりますので、今後ともご愛読をお願いいたします。

広報委員 S.T.



広報誌38巻(春号/2018年4月発行)の赴任医師のご挨拶で、消化器内科医員の土肥 萌由先生の卒業が「平成22年」とあるのは「平成21年」の誤りでした。訂正して、お詫びします。病院ホームページには修正したPDFを掲載しております。

発行：京都中部総合医療センター広報委員会